

この夏 君は すごい本と出会う！
本を読んで 世界を広げよう！

夏の特別貸出 実施中

◆一人10冊まで！ ◆返却日：9月1日

夏だ！読書だ！ナツドクミッションⅠ

読書感想文に挑戦しよう！

本を読み、心に残った感動を読書感想文に表現してみよう。本を読んで、何を感じ、何を考え、心がどう動いたか？ それを自分の言葉で生き生きと表現すれば、最高の読書感想文になります。ぜひ、チャレンジしてください。＜2000字原稿用紙・「HOW TO 読書感想文」は配布します。＞

1、対象図書：自由図書・課題図書（下記の図書）教科書、副読本、雑誌、パンフレット類、日本語以外の図書は対象外
2、字数：2000字以内 題名・氏名は字数に入れない 3、校内提出：9月1日（火）

夏休み中の図書館開館日

＜開館時間9:00～17:00＞

7月21日（火）～29日（水）

8月20日（木）～28日（木）

（土・日・祝 除く）

読書・自習に利用してください



★★第72回青少年読書感想文全国コンクール

課題図書

＜高等学校の部＞★★

「スウィッシュ！」 藤ノ木優/著

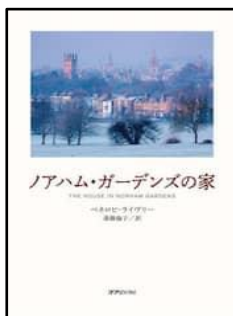
＜徳間書店＞



自分にもきっと新しい可能性がある。運動が苦手なキャプテンと骨折したエース。ふたりの絆が奇跡を起こす、青春バスケ小説。

『ニアハム・ガーデンズの家』

パネロピ・ライブラリー/著 ゴ布林書房



1970年代のオックスフォード。古い家に大お婆と暮らすクレアは、物置で見つけた異国の櫛をきっかけに、奇妙な夢をみるように・・・

『平和のうぶこえ』 毎日新聞出版

「原爆の子」として生きた80年



早志百合子/著
世界中で読み継がれる広島市の被爆少年少女の体験手記『原爆の子』。最晩年を迎えたその執筆者らがいま伝えたいこと。



2026 SOSEI

双星 Bibliobattle

知的書評合戦

＜1回戦＞

3年生大会：9/8（火）

15:40～16:20

2年生大会：9/9（水）

15:40～16:20

1年生大会：9/11（金）

15:40～16:20

＜2回戦＞

1回戦勝者大会：9/15（金）

15:40～16:20

10/7（水）決勝戦

15:40～16:30

双星Bibliobattle決勝大会

会場：図書館

主催：尼崎双星高等学校 図書委員会

夏読書！ナツドクミッションⅡ

君の「推し本」を紹介しよう！

～ Bibliobattleを楽しもう～

夏休み中にやること

- ① 面白そうな本、興味のある本、ためになりそうな本2冊を選ぶ。
- ② 心が動いた文や言葉、印象的なセリフにふせんを貼りながら読書する。読破する！
- ③ いちばん紹介したいと思った「推し本」を決める！
- ④ おすすめポイント3点を書きます。発表計画を立てる。
- ⑤ 発表練習する。（3分間程度）そして1回戦に参加する！

みんなが読みたくなる本を紹介してくれる人
バトラー（発表者）募集！

君の「推し本」をもってきて
熱く語ってください！
当日参加OKです！

図書館に来てください。「Bibliobattleワークシート」「発表の仕方」を配布します。Bibliobattleにおすすめの本を紹介します。

ぜひ観覧と投票に参加してください！
観覧者募集！

★★★★ 新着図書◆夏休みの本◆読書感想文・ビブリオバトルにおすすめの本 ★★★★★

『翠雨の人』 伊予原 新/著
新潮社



少女時代に抱いた自然への疑問をきっかけに科学の道に進み、世界的な研究成果を残した猿橋勝子の生涯を描いた物語。女性が研究者として活躍することが難しかった時代に、強い探求心を胸に研究を続け、核実験による放射能汚染の実態解明に取り組んだ。研究の

日々や海外の研究者との交流、その歩みと実績が戦後の社会情勢や時代背景とともに語られる。また、女性研究者を支援する猿橋賞の創設にも触れられている。

『劇場という名の星座』 集英社
小川洋子/著



皇居近くの歴史ある帝国劇場で交錯する人間模様を描く。暗闇の先に存在する完璧な異空間を生み出すために、役者のみならず案内係、幕内係、“幸運の椅子”担当さん、背負い屋さん等さまざまなスタッフが

黒子的にしっかり支えている。芝居の「ひとときのかげがえのない旅」は、観客によって千差万別ではあるが、劇場スタッフとの愛おしいも体温で温くなる短編8つが収められている。

『龍の守る町』 講談社
砥上裕将/著



消防士の秋月は災害において常に的確に行動しめざましい活躍をしてきたが、5年前の水害の過酷な状況の前になすすべもなく、心に傷を負って現場を離れることに。

司令室に異動し仕事内容の違いに初めはとまどっていた彼だが、同僚たちの仕事ぶりに刺激を受け、新たな立場で地域に貢献していこうと奮闘する。過去と向き合い災害に立ち向かう一人の消防士とその家族の再生の物語。

『カリーム、シリアとアメリカのはざままで』

シファー・サルタージ・サファディ/著/



シリア系アメリカ人のカリームはアメリカンフットボール大好き少年。クラスメイトのオースティンにいじわるされたり、難民のファーマーディを素直に受け入れられなかったりと、悩みながらの日々。一方、大統領令によって国内の状況が一変、ムが入国できなくなる事

態に陥り、カリームの家族にも影響が及ぶ。差別や偏見のはざままでゆれ動く少年の心を、フットボールを絡めて描く。

『アザラシと海の約束』 スーザン・ムスケ/著



オランダにある実在の施設、WEC（ワッデン海世界遺産センター）を舞台とした小説。主人公のミアは、幼い頃に見た野生のアザラシに魅せられ、念願となって WEC で働くことになったが、著名な海洋生物学者である父親との関係に悩みを持

っていた。そんな中で出会った一頭の赤ちゃんアザラシとの交流を通して成長していく姿と、アザラシ保護活動の知られざる裏側や、スタッフのリアルな活動が描かれている。

『こうしてぼくはスパイになった』 デボラ・ホブキンソン/著



第2次世界大戦中、ドイツ軍の空爆が続くロンドンが舞台である。民間防衛隊の伝令係の少年が米国人少女と共に、行方不明になったフランス人女性の手帳を巡って、彼女の搜索と手帳に記された暗号の解読をしながら、ドイツ軍のスパイを見つけて出そうとするミステリー。

シャーロック・ホームズのような暗号謎解きの魅力とノルマンディー上陸作戦前夜の英国の人々との緊張感が伝わってくる。

『それでも希望は失わない！「国境なき医師団」いのちの現場へ』

中嶋優子/著 河出書房新社



「国境なき医師団」に憧れて医師となった著者が、海外での医療支援活動の経験を記したノンフィクション。ガザやウクライナ、シリアなど紛争や災害の現場で見た人々の暮らしや医療の実情、命を守るために行われる支援の様子が臨場感豊かに語られる。また、「国境なき医師団」が重視する証言活動について紹介されており、起きている出来事を社会に伝える役割、人道援助の現場の課題について知ることができる。

『和食のミライ 食文化と地域を守る』 佐藤洋一郎/著 岩波書店



本書は、ユネスコの無形文化遺産に登録された日本の和食文化の背景にある世界的和食ブームや、海外からの視点などを紹介し、次に日本の歴史・文化・風土から和食を多角的にとらえていく。古くからある日本の行事食や発酵文化、和食の成りたち、地域による食文化の違いについて、さらに現代の日本が抱える農地・森の荒廃、地域衰退といった課題を通して、未来へ和食文化をつなぐ道筋を示す一冊。

『読むためのレッスン 小説はこんなふうでできている』

菅原 克也/著 岩波書店



小説のなかでは不思議なことが起こる。語り手は時間や空間を飛び越え、人の心のなかを覗き、語りがたいことを語る。どうしてそんなことが可能なのか。中島敦や安部公房、開高健や車谷長吉など、近現代の日本

文学を例に、寓意、語り手、視点といった観点から、小説のしくみと魅力を解き明かす。創造的に読むためのレッスン。

『僕は、そして僕たちはどう生きるか』 樹村 みのり・梨木 香歩



「コペル」と呼ばれる14歳の僕。連休初日の朝、染織家の叔父 ノボちゃんに頼まれて、学校に来なくなった親友ユージンに会いに行くことに。そこから始まるかけがえのない一日の物

語。誰かとともに生きることを意味を、コペルは考えてゆく。

『給水塔から見た虹は』 集英社
窪 美澄/著



今日の“あなた”に、読んでほしい。はじめてできた「ルーツ」の違う友達、母とのすれ違い。この世界のさまざまな分断に戸惑う2人の“こども”が、少しずつ

“おとな”になるひと夏を描いた、ほろ苦くも大きな感動を呼ぶ、ある青春の逃避行。

『自分を信じる勇氣 自信が生まれる「個性」と「知性」のみがき方』

岩井 俊憲/著 誠文堂新光社



勉強のつまずき、人との距離感、性格の悩み…壁を乗り越えるメンタルを育む「心理学的に正しい」方法。「知性」って何？「勉強ができる」と「頭がいい」の違いって何？劣等感との付き合い方（劣等感はないほうがいいの？どうしても自分に自信をもてないのはなぜ？ ほか）人生のシナリオの描き方（自分の人生の「本当の目標」を知るには？